

『新刻官音彙解釋義音註』（乾隆十三年重鐫本）の言語的特徴について
A Linguistic Analysis on *Zhushi Guanyin Huijie*（註釋官音彙解）Second ed.
about 1748

大島 吉郎
OSHIMA Yoshiro

要旨：本文试图分析出《新刻官音汇解释义音注》语言上的一些特点。该书由福建蔡伯龙编纂，出版于清朝乾隆 13（戊辰 1748）年，与《儒林外史》（己巳 1749）、《脂砚斋重评石头记》（庚辰 1760）成书年代不相远，具有一个值得考察清朝中期官话的重要价值。

キーワード：『新刻官音彙解釋義音註』 清代官話 乾隆 13 年 言語的特徴 正音書

目次

- 0 はじめに
- 1 太田辰夫 1969「北京語の語法特点」との比較
- 2 語彙的特徴について
 - 2.1 “如咎” 2.2 “知道” “晓得” 2.3 “看” “瞧” 2.4 “欲” “呷” “吃”
 - 2.5 “不曾” “未曾” “没有” 2.6 “V不得” 2.7 “要紧” “打紧” 2.8 “亦” “也”
 - 2.9 介詞 “问” 2.10 助詞 “吗” 2.11 “儿化” “-子”
- 3 おわりに
- 4 余論
- 引用書目
- 参考文献

0 はじめに

本稿は萬有樓重鐫¹⁾、乾隆十三年仲春漳浦西湖八十四老人蔡爽伯龍氏纂著『新刻官音彙解釋義音註』²⁾の語彙的特徴についての記述と分析を行おうとするものである。

乾隆十三年(1748)と明記された本書の言語資料としての価値は極めて高い。本書の刊行年は《儒林外史》、また《紅樓夢》の初稿が成立したと考えられる時期とほぼ重なり、清代北京語の成立、北方及び南方官話の性質について考察を進める上で有効な証左と成ることが期待される。

高田時雄 1997:pp.775 は清代官話の正音書として下記の 6 点を挙げるが、本書については未見であるとする。

- 一、袁一州『官話詳編』一卷、雍正七年(1729)刊本
- 二、張玉成『別俗正音彙編大全』二卷、乾隆五十年(1785)序、嘉慶庚辰(1820)刊本
- 三、蔡爽『新刻官話彙解便覽』三卷、乾隆甲寅(1794)序刊本

1) 宮原氏旧蔵本の如き「萬寶樓」とする版本も存在する。

2) 封面には「音註官音彙解」するが、上巻第 1 行には「新刻官音彙解釋義音註」とあり、下巻第 1 行には「新刻官音彙解註釋」と記されており、表記が一定しない。本稿では一般的と認められる書名に基づく。

- 四、高静亭『正音撮要』四卷、道光十四年（1834）刊本
- 五、莎彝尊『正音辨微』六卷、道光十七年（1837）刊本
- 六、莎彝尊『正音咀華』三卷續編一卷、咸豐癸丑（1853）刊本

「蔡爽『新刻官話彙解便覽』³⁾三卷、乾隆甲寅（1794）序刊本」については木津祐子 2001:pp.71-73 の論考があり、本書の書名を『新刻官話彙解釋義音註』とし、版本と内容についての紹介がなされているものの、当時信頼に足るテキストが得られなかった事が要因となり論考の対象には含まれていない。木津祐子 2001:pp.65 では本書『新刻官話彙解釋義音註』の版本として、以下の三本を挙げる。

- 一、法政大学沖縄文化研究所楚南家文庫蔵本
- 二、台湾中央図書館台湾分館蔵本
- 三、筑波大学大塚秀明氏架蔵本

近年、破損の補修を終えた同書が法政大学機関リポジトリより「法政大学沖縄文化研究所蔵『新釈官話彙解』」としてオンライン上に公開され、利用に供されている⁴⁾。加えて Yale University Library からは同じ版本の『新刻官話彙解釋義』がオンライン上に公開されており、法政大学蔵本と相互に参照することで、より正確なテキストを構築することが可能になっている⁵⁾。

本書が編まれた主要な目的は、福建の知識人（識字層）を対象に官話の正音と常用語彙、常用会話、常用句を習得させることにある。福建に焦点を当てた本資料の性格から、官話は北京官話ではなく、南京官話を北限とする南方官話であることが想定される。

本書の構成は木津祐子 2001:pp.72 ですでに示されているが、重複を厭わず再掲することにした。「身體舉動」から「雜類増補」までの 30 項目を立てる。

彙解釋義目次

身體舉動	人品稱呼 ⁶⁾	器具服飾
宮室物料	飲食調和	衣服製作
衙門訟獄	營伍軍務	時令神明
戲耍音樂	地理名勝	姓氏數目
天地山水	土農工商	禽獸魚虫
花草果木	病症醫藥	婚産喪葬
五穀蔬菜	五色滋味	寶貝布帛
刑具軍器	祭祀禮儀	舟馬事件
口頭套語	笑談便話	時事常談
問答詈罵	家用什物	雜類増補

「口頭套語、笑談便話、時事常談、問答詈罵」は単なる分類単語集ではなく、識字層の日常生活を想定した常用句、常用表現、常用会話を集めたものであり、清代中期の官話語彙、語法を知る上で、極めて高い資

3) 同書第 1 葉第 1 行に「官話」と記し、改訂簡約版作成に当たり書名の変更を行ったことが確認される。「官音」から「官話」への表記変更を巡るコンセプトの転換についても、言語政策の観点から考察を試みる意義がある。長澤規矩也編、汲古書院 1974 年刊『明清俗語辭書集成』第三輯参照。

4) file:///C:/Users/Win10/Downloads/MP0000000164-01%20(5).pdf

5) 画像は極めて鮮明であるが、一部虫損箇所が見られる。https://collections.library.yale.edu/catalog/15497392

6) 木津 2001 では「通呼」とするが、Yale University Library 蔵本により「稱呼」であることが確かめられる。

料的価値を有する。本稿ではまず太田辰夫 1969 が提案する「北京語の語法特点」を基準に、本書の言語的特徴を探ることから始めることにしたい⁷⁾。

1 太田辰夫 1969「北京語の語法特点」との比較

1.1 第一人称“咱们”

“我们”が用いられるのみで“咱们”は見えない。例えば、

(01) 官話⁸⁾ 乡谈 我们 你们 他们 这个 那个 别个 怎么 什么 这里 那里 这样 那样(64a 口头套语)⁹⁾

“俺、咱、俺”を「官話」に含め記述するようだが、音義に関する註、また用例も見られないため、どのような場面で用いられるのか語用論的観点からの詳細を明らかにすることが出来ない。例えば、

(02) 我们 你们 他们 俺 咱 俺 (16b 人品称呼)

1.2 介詞“给”

「受益」、「対象」を表す介詞“给”の例は見られない。一方、“和”で“给”の意味に用いる例が見られる。例えば、

(03) 主人家那行李铺盖和我搬进房间里头来，早早转¹⁰⁾个汤来洗胰洗澡。(77a 问答骂骂)(おい主、その荷物と寝具を部屋に運んでくれ、体を拭き清めるのに急いで湯を持ってきてくれ：筆者訳)

本書で“和”は“共”に対して「官話」として扱われている。“正”の表記は閩方言に対する「官話」での言い方であることを示す。例えば、

(04) 共你桐¹¹⁾ 私 正和你赌过 (74b 时事常谈)

(05) 共你无过 正和你无干 (74b 时事常谈)

1.3 助詞“来着”

用例は見られない。

1.4 助詞“呢”

全5例見られる。例えば、

(06) 你这样还摺看的，不知要卖多少价呢。(76a 问答骂骂)

(07) 我们看货估价凭公道，还你这许多好不好呢。(77a 问答骂骂)

(08) 再烫一壶来好不好呢。(77a 问答骂骂)

(09) 这位怎么好坐呢。(77b 问答骂骂)

(10) 大家不是亲戚，亦是朋友，何妨呢。(77b 问答骂骂)

平叙文での使用例は見られず、5例のいずれもが疑問文、あるいは反語文に用いられて疑問、反駁の語気を表し、持続、進行義には関わらない点は北京官話と様相を異にする¹²⁾。

1.5 副詞“别”

「禁止」の意味を表す“别”は用いられていないが、同義である“不消、不要、不必、莫、罔”などの語、語句が用いられており、“莫、罔”は方言語彙として、“莫”はまた反語を表す“莫不是”として用いられる。“不消”は7例、“不要”は8例見えるなど、旧白話語彙を継承する一面が伺える。例えば、

(11) 不消讲 不消忙 不消问 不消看 不消来 不消去 (66b 口头套语)

(12) 你这人说不来的话那不消讲，算得钱来还我就是。(78b 问答骂骂)

7) 本書の版型は木津祐子 2001:pp.72 によれば、毎半葉 11 行、上巻 42 葉、下巻 43 葉、全 85 葉。

8) 以下、便宜的に用例、用語は簡体字によって示す。

9) 出典の数字は葉数を示し、a、b は各葉の表、裏であることを意味する。

10) “转(搏)”は「16a 饮食调和」に“端”の注記があることから、「(盆に乗せて)運ぶ」意であることが分かるが、常用語彙であるのせよ、北方官話であるとは見なし難いであろう。

11) “桐”本来は米偏に同の字。

12) “哪”の字も見られるが助詞としてではなく楽器の名称“吹哨哪”「18a 戏耍音乐」に用いられている。

- (13) 不要轻看人家 (75b 时事常谈)
- (14) 莫不是步摇得宝髻玲珑 (71a 笑谈便话)
- (15) 莫张样 正不必妆腔 (75a 时事常谈)
- (16) 莫啼 正不必啼哭 (75a 时事常谈)
- (17) 话圪讲 正混说几句 (75b 时事常谈)
- (18) 不瞒相公酒是有的, 都是烧酒, 不当好将就圪吃罢。(77b 问答骂骂)

反語を表す語には“难道”、“不成”が“何苦、何妨”と並行して見られるものの、残念ながら例文は上げられていない。例えば、

- (19) 何苦 何妨 难道 不成 (64b 口头套语)

1.6 程度副詞“很”

表記としての“很”は見えないものの、同義である“狠”は程度副詞として8例、“～得狠”として30例用いられる。本書は“狠”から“很”への移行が起こる以前の資料であることを伺わせる。例えば、

- (20) 狠好 (中略) 狠大 狠长 (64b 口头套语)
- (21) 狠不公 (74a 时事常谈)
- (22) 做人狠好 (74b 时事常谈)
- (23) 相公请进里头瞧瞧我们房间打扫干干净净, 桌子、椅子都排得整整齐齐, 这里住狠好。(76b 问答骂骂)
- (24) 我告诉你狠久的债略略将就办罢。(78b 问答骂骂)
- (25) 老寔得狠 快活得狠 唠吨得狠 狼狈得狠 吃亏得狠 可恼得狠 可恶得狠 便宜得狠 甜 (恬) 淡得狠 刁头得狠 伶俐得狠 蠢钝得狠 标致得狠 有趣得狠 得罪得狠 公道得狠 奸巧得狠 刻薄得狠 害羞得狠 体面得狠 行伍得狠 轻快得狠 重难得狠 江湖得狠 (68b 口头套语)
- (26) 故此蹲在这里连话, 请不起好笑得狠。(70a 笑谈便话)
- (27) 说那里话, 有劳大驾失接得狠, 恕罪赎罪。(77b 问答骂骂)
- (28) 列位你们看这人强梁得狠, 欠债限宽, 谁家没有这样遭拮怎奈我何, 大家站开些等我和他拼命。(78b 问答骂骂)

“～得紧”も1例見られるが、程度補語ではなく、様態補語としての法用である。例えば、

- (29) 水流得紧 (46a 天地山水) (水がしきりと流れる: 筆者訳)

様態補語には以下のような例も見られる。例えば、

- (30) 走得快 来得迟 (08b 身体举动)
- (31) 家里头要用什么东西物件都办得齐整 (70b 笑谈便话)
- (32) 吃得精光 (73a 时事常谈)

1.7 程度補語“多了”

“多了”は形容詞に接辞して程度の高いことを表す程度補語であり、比較の結果を含意する。本書にこの用例は見られない。

本書の特徴の一つとして介詞“比”による比較文が“口頭套語、笑談便話、時事常談、問答罵罵”いずれの編においても現れない点が上げられる。比較表現が意識されないほど、通常の会話場面には必要とされてはいなかったことを物語ると言ってよいであろう。

2 語彙的特徴について

2.1 “如答”

《汉语大词典》(1986 上海出版社)、《汉语方言大词典》(1999 中华书局)、白维国主编《近代汉语词典(全四卷)》(2015 上海教育出版社)にこの語は見られない。文脈からは“如今、現在”の意味に相当することが分かる。例えば、

- (33) 往时卖是这样价，如盞相公来照顾，小弟大清早不敢高开价，总是照本钱，这样价卖相公罢了。(76a 问答骂骂)
- (34) 好就不会，如盞才来，失候不过。(77b 问答骂骂)
- (35) 如盞当午打一壶酒来吃。(78a 问答骂骂)
- (36) 瞒不得你如盞算不来，慢几天才有。(78b 问答骂骂)

2.2 “知道”“晓得”

現在の目から“晓得”は南方系の語であると認められているが、本書では“知道”と“晓得”が区別なく使用される。例えば、

- (37) 小弟这店里什么货都有，不知道相公要什么样的。(76a 问答骂骂)
- (38) 相公还不知道我们这里买卖银是纹银，…。(76a 问答骂骂)
- (39) 我晓得这几天下雨，路滑，走不得。(77a 问答骂骂)
- (40) 老哥你不吃烟才说这话怎么晓得我吃烟的事情。(77b 问答骂骂)

2.3 “看”“瞧”

“瞧”は北方における口語語彙であることは《現代汉语词典（第7版）》2016:1052の記述から確かめられる。本書において重畳型で使用される例が見られることは、南方において当時の常用語彙であったことを伺わせるものである。

- (41) 我的哥早间出来，我看你皱头皱脸为什么事这样愁呵。(70b 笑谈便话)
- (42) 你看世间有这等汉子那样瞧枉做个男子，还要干什么事，只好和老婆转马桶洗马布罢了。(70b 笑谈便话)
- (43) 相公请进里头瞧瞧我们房间打扫干干净净，桌子、椅子都排得整整齐齐，这里住很好。(76b 问答骂骂)

2.4 “欲”“呷”“吃”

「液体を口に含み飲み下す、飲む」意を表す動詞には“欲”“呷”“吃”の3語が用いられている。“欲”は“喝”の異体字であり、《紅樓夢》のある版本に特徴的に用いられる¹³⁾。“喝”という表記がまだ南方では一般的でなかった可能性が伺われる。“吃”は現在南方方言に使用されているが、清朝中期では南方官話として用いられていたことが予想される。例えば、

- (44) 有小菜技些来送饭，有茶到来欲一杯。(77a 问答骂骂)
- (45) 点个火来吃烟。有劳等我自己。欲一杯茶。多谢。(78a 问答骂骂)
- (46) 呷一口 (67a 口头套语)
- (47) 街上有什么菜拿得钱替我买来，收拾有好酒打一壶来吃。(77b 问答骂骂)
- (48) 如盞当午打一壶酒来吃。酒是不会吃的。(78a 问答骂骂)

2.5 “不曾”“未曾”“没有”

動詞の完了を否定する副詞には“不曾”“未曾”“没有”が用いられている。“不曾”が一般的であり、“未曾”は上流、“没有”は方言との対比が行われる点から、官場の中でも通俗的語感を伴う。例えば、

- (49) 不曾有 不曾见 不曾来 不曾去 不曾吃 不曾睡 (67a 口头套语)
- (50) 有一位朋友有些面善，几时在那里会过了。小弟还不曾相会。(78a 问答骂骂)
- (51) 未必 未曾 还敢 不敢 (67a 口头套语)
- (52) 食饭天未 正吃饭没有 (73a 时事常谈) (食事は済ませましたか：筆者訳)

2.6 “V不得”

本書は肯定形“V得”には注目せず、否定形“V不得”のみ取り上げ記述する。例えば、

- (53) 讲不得 瞒不得 舍不得 巴不得 做不得 了不得 使不得 当不得

13) 大島吉郎 1992 参照

顾不得 认不得 记不得 懂不得 靠不得 动不得 等不得 吃不得
睡不得 看不得 聞不得 听不得 算不得 走不得 去不得 住不得 (66b 口头套语)

2.7 “要紧”“打紧”

《现代汉语词典(第7版)》2016:235は“打紧”を方言語彙に分類し記述する。本書における区別は明確ではない。例えば、

- (54) 你这人好不多事, 别事是要紧的, 吃烟勾当什么要紧。(77b 问答骂骂)
(55) 不瞒相公酒是有的, 都是烧酒, 不当好将就罔吃罢。不打紧就打一壶, 烫得热热才好。(77b 问答骂骂)

2.8 “亦”“也”

副詞“也”と同義で“亦”が書面語ではなく口語で用いられているが、文語としての語感を帯びていることが想定されるであろう。“也”の例は省略する。例えば、

- (56) 亦好 亦罢 (64b 口头套语)
(57) 大家不是亲戚, 亦是朋友, 何妨呢。(78a 问答骂骂)
(58) 杭州上来九条河, 亦有鸳鸯亦有鹅, 亦有人家养老母, 亦有人家养老婆。(77a 笑谈便话)

2.9 介詞“问”

“向”に相当する介詞“问”が用いられている。《现代汉语词典(第7版)》2016:1375 参照。例えば、

- (59) 你少我的钱, 好久不问你该¹⁴⁾来还我了。你数数该还你多少。(78b 问答骂骂)
(あなたが私から借りていたお金を長い間貸しっぱなしにしたまま返してくれるよう請求していませんでした。[私は]あなたに幾ら返したらよいか[分からないので]あなたの方で計算してみてください: 筆者訳)

2.10 助詞“吗”

文末に用いて疑問の意を示す助詞“吗”の使用が認められる。全5例あり、刊行期が記された資料としては最も早期の用例である¹⁵⁾。例えば

- (60) 进无路退无路 正那样局地吗 (75b 时事常谈)
(61) 相公要买货吗。(76a 问答骂骂)
(62) 主人家你们里面房间干净吗。(76b 问答骂骂)
(63) 相公菜便了请坐吃酒。相公酒还要吗。(77b 问答骂骂)
(64) 家里还有小事是住不得的。当真吗。(77b 问答骂骂)

2.11 “儿化”“-子”

南方官話の特徴の一端として“儿化”によって示される語彙が少ない点を指摘することが出来る。“-子”が51例であるのに比べ、わずかに“罐儿”“马儿”“一会儿”の3語のみである。例えば、

- (65) 桌子、椅子、锅子、灶子、碗子、快子、盘子、碟子、杯子、罐儿、钵头 (70b 笑谈便话)
(66) 莫不是跌马儿檐前骤雨风 (71b 笑谈便话)
(67) 一刻久 正一会儿 (16a 营伍军务)

3 おわりに

本書の語彙、フレーズ、文、常套句を見て行くうちに、言葉の階層らしきものを見い出すことが出来る。会話のモードと称することが出来るかも知れない。即ち、

- 1 中央の高級官僚
- 2 地方の高級・中級官僚
- 3 地方の下級官吏

14) この“该”は動詞“拿”の意。

15) 大島吉郎 2003 参照。

4 非識字層

本書が読者、あるいは利用者として想定するのは2、3の地方（福建）における中級から下級官吏であり、非識字層は対象とはしないことは明らかである。官話と対比して取り上げる方言はモード4であり、官話を引き出すための道具立てとして利用しているものであり、もとより便宜的手段に他ならないであろう。

本書編纂のコンセプトは改訂版、簡約版を検討することでより鮮明になるものと考えられる。本書序文の検討、全文の翻字と版本間の対比は、今後の課題としたい。

4 余論

形容詞重畳型を豊富に掲出するのも本書の特徴の一つとして考えることが出来る。官話を使用しての日常生活、通常勤務において有用な言語情報であったことが伺われる。

< AA 的 >

鬍鬚的 麻麻的 胖胖的 瘦瘦的 高高的 矮矮的 老老的 嫩嫩的 硬硬的 軟軟的 尖尖的 鬆鬆的 稠稠的 稀稀的 辣辣的 苦苦的 咸咸的 淡淡的 酸酸的 甜甜的 脆脆的 滑滑的 涩涩的 粗粗的 碎碎的 员的 扁扁的 薄薄的 厚厚的 长长的 短短的 宽宽的 窄窄的 好好的 歹歹的 湿湿的 干干的 旧旧的 新新的 香香的 臭臭的 灵灵的 寔寔的 大大的 小小的 鮮鮮的 煤煤的 穢穢的 (67b 口头套语)

< ABB >

紅通通 黑嗎嗎 硬邦邦 爛支支 闹抄抄 羞答答 娇滴滴 泪汪汪 笑呵呵 光溜溜 恨匆匆 心焦焦 (67b 口头套语)

< AABB >

慌慌张张 诶诶闹闹 啰啰唆唆 唠唠嗑嗑 潦潦草草 花花绿绿 混混障障 喜喜欢欢 老老寔寔 腌腌臢臢 齷齪齷齪 干干净净 奇奇怪怪 糊糊涂涂 明明白白 清清楚楚 伶伶俐俐 齐齐整整 标标致致 双双对对 古古董董 热热闹闹 冷冷淡淡 零零碎碎 儼儼什什 颠颠倒倒 娇娇□□ 摇摇摆摆 公公道道 体体面面 端端正正 东东西西 来来往往 叭叭呱呱 计计较较 放放刁刁 吱吱喳喳 贫贫□□ 乒乒兵兵¹⁶⁾ 咿咿呵呵 (68a 口头套语)

引用書目

蔡伯龍纂著乾隆十三年萬有樓重鐫『新刻官音彙解釋義音註』

『(新刻)官話彙解便覽』、長澤規矩也編『明清俗語辭書集成』第三輯、1974 汲古書院刊 (pp.397-447)

莎彝尊『正音咀華』三卷續編一卷、咸豐癸丑(1853)刊本

参考文献

大島吉郎 1992 「‘喝’に関する若干の問題—‘欲’‘哈’を中心に(四)」、『語学教育論叢』第9号 (pp.101-447)
——— 2003 「『兒女英雄傳』校注本における“嗎”と“麼”の記述をめぐって」、白帝社『中国語研究』第45号 (pp.50-63)

太田辰夫 1969 「近代漢語」、『中国語学新辞典』(pp.186) 光生館。

木津祐子 2001 「『新刻官話彙解釋義音註』から『新刻官話彙解便覽』へ—併せて『新刻官話彙解便覽』音系の特徴について—」、高田時雄編『明清時代の音韻学』京都大学人文科学研究所刊 (pp.65-87)

高田時雄 1997 「清代官話の資料について」、『東方学会創立五十周年記念東方学論集』東方学会 (pp.771-784)

古屋昭弘 1998 「明代知識人の言語生活—万暦年間を中心に—」、神奈川大学中国語学科『現代中国語学への視座—新シノロジー・言語編』(pp.147-165)

16) “乒乒兵兵”の誤刻であると考えられる。原本で疊字はすべて“匕”で表記されている。